



## 伝統と先進～なんばエリアと沿線の魅力

明治18年(1885)に「難波～大和川間」を開通してから130年。当社は、沿線の皆さまとともに歩みつつ、地域の足として、安全で快適な輸送を提供するとともに、沿線の賑わいづくりに貢献してきました。

遠北光彦社長と南海沿線にゆかりのあるアナウンサー・川田裕美さんがなごやかに対談。南海電車の歴史や思い出話をまじえながら、鉄道の旅の魅力創出や、沿線各地域の活性化への取組み、創業の地であるなんばエリアの魅力づくり、街づくりについて語り合いました。

---

### 創業130周年 南海電車の思い出

---

**川田** 創業130周年、おめでとうございます。私は、ずっと小さい頃から南海電車に乗ってきましたが、まさか日本最古の、そんなすごい私鉄だとは知らずに…。改めて今、ありがたいことだったんだと思います。

**遠北** たしかに日本最古の私鉄でして、明治18年(1885)12月27日に創業し、今年で130年になります。

最初は大阪と大和川の北岸を結んでいて、「阪堺鉄道」という名前。当時は今のような電車ではなく、汽車で石炭を焚いて走っていました。その後いろいろ紆余曲折がありまして、今の形になったのが昭和22年(1947)6月。130年前のこのあたり、なんば界限は、一面のねぎ畑だったときいています。

**川田** ねぎ畑ですか！今ではどこにもそんな名残はありませんね。今は、キタと並ぶターミナルになっていますけど、全然違った景色だったんですね。130年という長

い歴史の中には、時代の先駆けになったこともあったかと思うのですが？

**遠北** そうですね。いくつかあります。今から110年くらい前、明治39年（1906）に日本で初めて今でいう食堂車、ビュッフェを走らせました。当時、和歌山～難波というのは2時間くらいかかりまして、今は1時間ですが、その食堂車の世話をしたのが女性で、しかも当社の社員でした。洋装でおもてなしをしたということで、当時は「教養ある洋装美人」とたいへん話題になったといえます。

**川田** 社員の方がおもてなしですか？ 専属の調理スタッフということではなくて。

**遠北** 給仕・接客を担当するのが喫茶室主任の仕事で車掌にあたります。今でこそ、女性の車掌や運転士も多いですが、当時から女性も活躍していた。その場をわれわれが提供し、期待に応えてくれたということは、非常に画期的だったのではないかと思います。

**川田** 女性の社会進出ということも、早くから進められていたんですね。そして、日本で初めて冷房車を導入されたとか。

**遠北** それは昭和11年（1936）のことです。当時は家庭でも冷房なんてほとんどなかった時代で、電車1編成の中でも冷房のある車両とない車両がありました。営業運転に入ると冷房車に人が殺到して、かえって暑くなったという笑い話もあります。その後、日中戦争が始まりまして、冷房は贅沢だということになり、廃止になったと記録に残っています。

**川田** 冷房が贅沢とは今では考えられないことですが、当時はそうだったんですね。戦争が起こり、戦災で多大な影響を受けたとうかがいました。

**遠北** ちょうど南海沿線には軍需工場がたくさんあり

まして、特にその軍需工場が被害を被ったといわれています。戦後新たに発足した会社も満身創痍でしたが、その後力をつけ、戦後、昭和20年代の後半には、何とか今の南海本線、高野線という形になりました。戦争で多くの生命や財産を失いましたが、その中から立ち上がって暮らしを立て直し、徐々に豊かになっていった、そんな時代を沿線の皆さまとともに歩んできたわけです。

**川田** 市民生活の向上と共に、南海電鉄もどんどん成長して豊かになっていった。遠北社長は、そうした時代、どのように過ごされたのですか？

**遠北** 今から50年近く前になりますが、小学生の頃、私は電車が非常に好きで、和歌山市内の実家から大阪に出かけることになると、海外旅行へ行く前のような気分で、1週間くらい前から興奮して眠れない。父親に連れて行ってもらった時も、先頭車両に立ったまま。和歌山から難波まで、席が空いているのに父親も横でずっと立ったまま、帰りもずっと立ったままで景色を見ているという感じ。父親から「この子を連れて行くと疲れる」といやがられたという話を母親から聞きました（笑）。

**川田** ほんとに電車がお好きだったんですね～。南海電鉄に入られたのも、そこからですか？

## Profile

**川田 裕美**（かわた ひろみ）

昭和58年（1983）生まれ。大阪府泉大津市出身。府立三国ヶ丘高校を経て、和歌山大学に入学。2003年度「ミズえびすばし」に選ばれた。卒業後、読売テレビにアナウンサーとして入社。「情報ライブミヤネ屋」などに出演した。平成27年（2015）よりフリーとなり、東京を拠点に活動中。





7000系(昭和38年から運行)

**遠北** そうですね。電車が好きだということもありますし、公共的な仕事をしたい、和歌山となんばを結ぶ、そんな役に立ちたいという思いもありました。

**川田** 私も子どもの頃の話になりますが、最寄り駅からなんばに行くということはすごく遠くに行くような感覚で、なんばに行ってデパートで買い物してってというのが家族と出かける楽しみでもありました。住吉大社にお参りに行く、浜寺公園に遊びに行く、南はみさき公園に遊びに行って…と、私は幼少期から青春時代までずっと南海沿線でしか過ごしていないんですよ。

**遠北** ということは、川田さんの思い出の中の南海電車は、以前のツートンのグリーンというイメージでしょうか？

**川田** そうなんです。だからサザンの「懐かしの緑色」、ほんと懐かしいなと思って。

**遠北** われわれや年配の方にとっては、昭和のあの色が「南海電車カラー」でした。懐かしいですね。姿を消して、20年くらいになりますか。7000系という電車ですが、今秋に運行を終了することを記念して、この6月から9月末まで特急サザン1編成8両にツートンのグリーンを復活させて難波～和歌山市駅間を運行しました。

**川田** みなさん懐かしく思われたでしょうね。私も、もう1回乗ってみたいなと思います。和歌山大学前駅がで



きたのも、ビッグニュースでした。

**遠北** 地元の要請もございまして、平成24年(2012)に新しく開業しました。

**川田** 私は和歌山大学出身ですので、卒業後のこととはいえすごくうれしくて、駅ができた時のセレモニーの司会もさせていただきました。通学が便利になって、和歌山大学ももっと栄えてくれたらいいなと思います。

**遠北** 学生時代、通学はどのようにされましたか？

**川田** 和歌山市駅まで行って、そこからバスに乗って…。みんなに「大学生活どうだった？」って聞かれたら、最初に出てくるのが通学の楽しさ。海を見て、さらに山を見て通学できるなんて、毎日小旅行しているようなものでしょ。大学に行くのが楽しくて仕方なかったですね。

---

## 高野山・関西国際空港 旅の魅力

---

**川田** このところマスコミでは関西国際空港(関空)の賑わいぶりがよく取り上げられます。LCC(格安航空会社)、円安、ビザ発給要件の緩和、免税品目の拡大などもあって、外国人のお客さまが増えましたよね。空港線はどんな状況ですか？

**遠北** この1~2年ほんとうに多くのお客さまにご利用いただいています。現在関空はLCCが16社就航し、日本最大のLCC発着空港になり、インバウンド(訪日外国人)が特に増え、おかげさまで当社の空港線は非常に好調です。7月までに空港線の利用者は前年比で2割増の状況。LCCが関空に着きますと一度にお客さまが来られますので、ある電車は外国の方で満員になったりして、ここはどこ国だろうと錯覚することもあるくらいです。



ラピートルジャー



真田赤備え列車

**川田** 社員の方も英語の勉強が大変じゃないですか？

**遠北** 今は特に韓国、中国のお客さまが多く、英語に加えて韓国語、中国語。社員は一生懸命に身ぶり手ぶりで案内しているといった状況です。

**川田** 「ラピート」を最初に見た時は衝撃的でした。カッコよくて、色合いも上品ですし…。



**遠北** 電車らしくない電車ということで反響も大きかったですね。20年たった今でも古さを感じさせない斬新なイメージで、当社の看板にふさわしいすばらしいデザインだと思っています。特に子どもさんに人気で、電車とは思えないような顔つき、飛行機をイメージさせるような窓。荷物入れやシートにもこだわりがあります。昨年の夏にはガンダムの赤をイメージした「赤いラピート」が好評を博し、今年の8月に終わりましたが「Peach×ラピート」も子どもさんに非常に人気がありました。

**川田** かわいかったですね～。

**遠北** 現在は、イメージキャラクターとして「ラピートルジャー」が主に海外でラピートの紹介役として活躍しています。

**川田** 日本にいらした時に「あっ、自分の国で見たキャ

クターがいる!」というわけですね。今後もイベントや企画列車を次々と打ち出していくお考えですか？

**遠北** そうですね。電車というのは、単に場所を移動するだけの手段や乗り物ではなくて、目的地である未知の世界に誘い、夢を大きくふくらませるような仕掛けづくりが求められています。たとえば高野線では「天空」のようにオープンな形で高野山の景色を見てもらおうと座席の向きに工夫を凝らしたり、「こうや」をラッピングして、特別仕様の「赤こうや」「黒こうや」「紫こうや」を運行したりしています。

**川田** 高野山は国内だけでなく外国からのお客さまも多いですし、日本のよさをどんどん発信していきたいですね。

**遠北** そうですね。今年高野山は開創1200年にあたりまして、大勢のお客さまにお越しいただいています。日本の方は魂のふるさとを求めて、外国のお客さまはより日本らしい情景を求めて、高野山を訪れているようです。われわれは、ほかに代え難い貴重な交通アクセスを預らせていただいていると感じております。

**川田** 来年はNHKの大河ドラマで「真田丸」が始まり、真田ゆかりの九度山駅、こちらがまたさらに賑わいますよね。

**遠北** 当社の沿線がクローズアップされるということで、またとないチャンスだと思っています。九度山町とも協力しながら、幸村ゆかりの地に多くのお客さまに来ていただけるように、今年11月から赤備え甲冑をモチーフにした「真田赤備え列車」を1編成走らせることになっています。川田さんもぜひ機会があれば…。

**川田** このチャンスを逃さず、ブームに乗り遅れないよう、乗ってみたいと思います。

**遠北** ぜひ、お越しください。



田尻町  
ガイドマップ



帝塚山  
WALKING MAP



加太さかな線  
ポスター

## 南海沿線活性化への取組み

**川田** 南海沿線には、ステキな街がたくさんありますね。たとえば、住吉大社。大阪初の世界遺産を目指す仁徳天皇陵の堺、それに徳川御三家のお膝元・和歌山など…、他にも歴史や文化を感じさせる魅力的な街がいっぱいです。活性化策はどのようにお考えですか？

**遠北** 私鉄の沿線というのは、当社ですと南海沿線といわれ、会社名が沿線名として表現されます。それだけに鉄道会社の責任は非常に重いと思っています。しかし、ありがたいことに沿線エリアの皆さま方とはウインウインの関係で、沿線エリアが活性化すれば南海電鉄も活性化するというふうに、友好的な関係が育まれていると思っています。

これまで、いろいろと活性化策を進めてきました。高野線の橋本駅から高野山に至る沿線では「こうや花鉄道」と名付けて地元の方に花を植えていただき、「天空」の運行と連動して、お客さまを花と景色でおもてなしする。最近では、阪南大学の学生さんと連携して田尻町の魅力をアピールしたり、帝塚山学院高校のみなさんと協力して帝塚山のウォーキングマップを作ったり…。加太線では、「加太さかな線プロジェクト」と銘打って、地元の名物の販売やスタンプラリーなどを行っています。

**川田** 正式名称は加太線のままですよ。キャンペーン用のネーミングですか？

**遠北** 魚の絵をあしらった前掛けをして、「加太に魚を食べに来てください」とアピールする企画です。加太の魅力を大勢の人に知っていただき、活性化につなげていこうと、地元自治体とわれわれが力を合わせて頑張

っています。

**川田** 加太には、私も大学時代によく遊びに行きました。大阪からも和歌山からも近くて、あんなにいい場所がある。ほんとに絶景で、温泉もあって…、行ってみたいとわからないですよ。

**遠北** インバウンドも含め内外のお客さまに、しっかりPRしていきたいと思っています。

**川田** 平成26年（2014）7月からは、泉北高速鉄道が南海グループに加わりました。これで南海沿線が泉北エリアにまで広がったこととなりますが、泉北エリアはこれからどのように変わっていくとお考えですか？



**遠北** 泉北エリアというのは、昭和42年（1967）から入居が始まった「泉北ニュータウン」と「トリヴェール和泉」という街があり、都心へのアクセスを泉北高速鉄道が担っています。今回、私たちの仲間入りをしたということで、運転面やダイヤ面、設備面などあらゆる角度から見直し、近くて便利な鉄道にしていこうと考えています。そのエリアの中心となるのが泉ヶ丘地区です。平成35年度には近大病院ができることもあって、関係先と連携を密にしながら新しい街づくりを進めていきたいと思っています。医療、教育、老後の生活や子育てに優しい

街～われわれの沿線にぜひとも住んでいただきたいものです。

### なんばターミナル再生計画と街づくり

**川田** この10年の間に、なんばターミナルを中心にミナミの街が大きく変わってきました。キタも大阪駅ビル・ルクアの開業やグランフロント大阪などうめきた開発などで賑わっています。都会的なキタと庶民的なミナミといわれ、いろいろ対比されることもあると思いますが、ミナミの街づくりというのはどのようにお考えですか？

**遠北** そうですね。今、川田さんがおっしゃったように、キタと比べられますけれども、キタはどちらかというと梅田を中心としたビジネス街、縦に広がる街というイメージがありますが、ミナミはどちらかといえば平面的に広がっている街。たとえば、心齋橋、日本橋を含めて、ぶらっと歩いて楽しめる街ではないかなと思っています。当社グループも、このミナミの中には「なんばCITY」、「なんばパークス」、「なんばこめじるし」、「EKIKAN」などの商業施設をもち、高島屋さん、マルイさんもある。みなさんと協力しながら、歩いて楽しい街を目指していきたいと思います。また、関空からの世界への起点、日本を訪れるお客さまの玄関口としてふさわしい街に、ハード、ソフト両面からしていきたいと考えています。

**川田** 難波の駅が新しくなった時に、一瞬「ここなんばだったかな？」と思うようなうれしい戸惑いがありました。それはもう、きれいで、近代的で、清潔で、わかりやすい難波駅になって、すごうれしくて。一方、なんばの外に出るとほんとに優しい庶民的な街が広がっていて、歩いても楽しいし、若者も「ウラなんば」が注目されるよ



うになってから増えましたよね。

**遠北** 増えましたね、若者が。

**川田** なんばで何でも揃いますし、関空にも行ける玄関口になった。私は「ロケット広場」がすごく…。

**遠北** やはり、ロケット広場のイメージがありますか？ロケットは、たしか8年前になくなった…。

**川田** どこいっちゃたんですか、もう帰ってこないんですか？ あそこは、みんなのシンボルというか、ケータイのない時代には絶好の待ち合わせ場所でした。長年親しまれてきたロケットを撤去して「なんばガレリア」をオープンされました。どういったテーマでつくられたのですか？

**遠北** なんばガレリアができたのが平成21年（2009）で、「伝統と先進」をテーマに南海ビルを美装化したのもその年。関空と直結する大阪の玄関口にふさわしいファサードと空間を創出するためでした。その後もなんばエリアを中心にさまざまな側面から都市機能の充実と街づくりに持てる力を注いでいるところです。

**川田** 「Zepp」がこちらに来たというのも大きかったのでは？

**遠北** そうですね。「Zepp Namba (OSAKA)」の誘



「愛が、多すぎる。」キャンペーン広告

致もそうですが、「フレイザーレジデンス南海大阪」の開業、JNTO(日本政府観光局)の外国人観光案内所として最高ランク3の認定を受けている「大阪市ビジュアルインフォメーションセンター・難波」など、外国からの来訪者に必要な機能を整備してきました。今後もよりソフト面を強化し、大阪ならではの、人がつくるサービスを生み出していきたいと考えています。

**川田** 「なんばEKIKANプロジェクト」というのも、なかなかおもしろい企画ですね。



**遠北** 駅と駅との間の高架下を利用して、趣味性の高い、目的性の高い店舗をつくり、そこで楽しんでいただくとう、なんばから南の方へ延ばしているところです。

**川田** なんばから南の方というのは、あまり知られていませんでしたね。

**遠北** もっともっとミナミへ来ていただこうと、回遊性を含めてプロジェクトをスタートさせました。

**川田** たとえば、自転車にこだわりがある方なら、わざわざ来たいと思える場所。もう少し足を伸ばせば今宮戎神社があったり、なんば以南エリアのよさを知ってもらえる機会になりますね。

**遠北** 回遊性含めて、楽しんで、歩いて回っていただけるような、そういう街になればいいですね。

## なんばエリアと南海ブランドの求心力

**川田** この10年、なんばの街づくりに力を入れてこれたことがよくわかりました。そして、今進んでいる南海会館ビル建替計画、「新南海会館ビル(仮称)」の完成が、これまで取り組んでこられた「南海ターミナルビル再生計画」の集大成になるとのことですが。

**遠北** 新南海会館ビルは、当社グループの最重点拠点であるなんば地区の持続的な成長を目的として、エリアポテンシャルの向上と新たな価値創造を目指しています。30階建てで、1階から10階くらいまではビジネス機能、13階から30階はオフィス機能をもたせます。特に、ビジネス機能の中には先端医療施設を誘致し、日本人のみならず、海外からも診察・検診を受けに来られる施設を目指しています。7~8階には500人規模のセミナーやシンポジウムに対応できる多目的ホールを備えたコンベンションセンター、5階には国内外の観光客の皆さまの多様なニーズに対応する観光客サロンをつくりまします。国際色豊かな街のシンボルとして新南海会館ビルが立ち上がるわけです。3年後、平成30年(2018)秋の完成を目指しています。

**川田** 北の方角から難波駅を見ると、後ろにスイスホテル南海大阪がそびえ、その右隣に建つわけですね。なんばの街もどんどん変わっていきませんが、ひとつおうかがいしたいのが、今流れているCMのことです。けっこう斬新で、びっくりしたんですけれども、ああいったアイデアはどこから出てきたのですか？

**遠北** 南海沿線というのは、川田さんもお存知だと思いますが、関西ではあまり知られていません。そこでアンケートを取りましたら、当社沿線に住んでいる方とい



うのは、おせっかいなくらい世話をしたがる、非常に愛情が豊かだということがわかってきました。そんなわけで「愛が、多すぎる。」をブランドスローガンにしたんです。まず南海沿線がここにあって、こういう所だと「知ってもらおう」。次は「来てもらう」。最終的には「住んでもらおう」ということで進めています。これは「おもしろい」という意見もあれば、「南海らしくない」という意見もあります。

**川田** えっ、そうなんですか〜。南海電車を知らない方にまず認知してもらい、気になったら今度は乗ってみようということになりますよね。たしかに、「愛が、多すぎる。」ような気がしますけど…。私も、電車といえば南海しかないものだとは最初は思っていて、大人になるにつれ他の電車にも乗るようになりましたが、心の中では「一番は南海」と思ってる。「愛」があるんですよね。「多すぎる」というのにもビックリしました。

**遠北** 2弾、3弾と続けて、イメージアップにつなげてい

きたいなど。

イメージアップになっていると思われますか？

**川田** なってますよ。それくらい、押しの強い南海でいきましょう！

**遠北** あといわれるのが、「何でトシちゃんやねん？」って…。子どもさんもお年を召された方も、誰もが知ってる歌手の一人ではないかということをお願いしたんです。

**川田** すごくうやましかったです。いいな〜、こんな歌歌えて。

**遠北** 幼稚園や小学校の子どもを集めて、あの体操を流行らせていこうと、今がんばっているところです。

**川田** 覚えやすい体操ですね。これからも応援しています。

**遠北** こちらこそ、これからも南海電鉄をよろしく願います。本日は、楽しいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



本社（南海なんば第1ビル）にほど近い[EKIKAN]にて

# インバウンドによる当社施設の賑わい



難波駅



関西空港駅



特急「ラピート」(難波駅9番ホーム)



祈禱室(なんばCITY)



免税カウンター(なんばパークス)